

9. 据置栽培のナスに発生した茎枯病（枝枯れ症状）			
[要約] 据置栽培ナスに発生した枝枯れ症状は、 <i>Dothi orella</i> sp. によって生じる病害である。			
研究室名	病虫研究室、野菜・花研究室	連絡先	0869-55-0271（内線240）

[背景・ねらい]

隔離床養液土耕の据置栽培ナスに枝枯れ症状が発生した。隔離床養液土耕据置栽培の普及上の阻害要因となる可能性があるため、原因究明を行い、防除対策に資する。

[成果の内容・特徴]

1. ナスの枝枯れ症状は3年生以降の株に発生（4年生株では前年調査で発生）したが、6年生、4年生株であっても切り戻した株では発生が見られなかった（表1、図1）。時期別発生割合には明確な傾向は見られなかった。
2. 主枝と側枝の分枝部付近から主枝内部に褐変が広がっていた側枝で枝枯れ症状がみられた。ただし、側枝には褐変がみられなかった。
3. 枝の褐変部からは*Dothi orella* sp. が高率に検出された(表2)。
4. 分離された *Dothi orella* sp. 菌株は有傷で各種のナスに病原性を示したが、無傷では病原性がなかった(表3)。

以上の結果、本症状は*Dothi orella* sp. による病害である。

[成果の活用面・留意点]

1. 本症状は、県内のナス主産地ではこれまで確認されておらず、据置栽培という特殊な条件で発生する病害といえる。
2. 病斑部を切除すれば発生を抑制できる。

[具体的データ]

表1 樹令別の枝枯れ発生状況^{a)} (平成11年)

月	6年		5年	4年		3年	2年	1年
	連続(26株)	切戻(10株)	(6株)	連続(6株)	切戻(4株)	(2株)	(8株)	(6株)
前年まで	5(%)	0	17	6	0	0	0	-
1月	0	0	0	0	0	0	0	-
2月	14	0	0	0	0	0	0	-
3月	5	0	0	0	0	0	0	-
4月	12	0	33	0	0	0	0	-
5月	0	0	17	0	0	0	0	-
6月	7	0	0	0	0	0	0	-
7月	2	0	33	0	0	0	0	-
8月	0	0	0	0	0	0	0	0
9月	10	0	9	0	0	0	0	0
10月	6	0	0	0	0	0	0	0
11月	6	0	0	0	0	0	0	0
12月	6	0	14	6	0	0	0	0

a) 発生側枝率：{発生側枝/(株数×側枝数)}×100

表2 ナスの枝病斑からの *Dothiorella* sp. の分離頻度

分離年月日	採集場所	分離数	検出率
平成11年12月14日	赤磐郡山陽町	35	60(%)

表3 ナス(幼苗)に対する *Dothiorella* sp. (D-1) の病原性

反復	接種菌株	品種	接種15日後		接種40日後	
			無傷区	有傷区	無傷区	有傷区
1	D-1	ツノナス	-	++	-	++
	D-2	トナシム	-	±	-	+++
	D-3	ツノナス	-	+++	-	+++
	D-4	アカナス	-	++	-	++++
	D-5	アカナス	-	-	-	-
	D-6	アカナス	-	±	-	+
	対照区	トナシム	-	-	-	-
2	D-1	トナシム	-	+++	-	+++
	D-3	トレロ	-	+	-	++++
	D-4	トナシム	-	++	-	+++
	D-5	トレロ	-	+	-	++++
	D-6	千両2号	-	+++	-	++++
	対照区	千両2号	-	-	-	-

[その他]

試験研究課題名・事業名：隔離床養液土耕栽培のナスに発生した枝枯れ症

予算区分：県単

研究期間：平成12年度

関連情報等：本研究の成果は、平成13年度日本植物病理学会大会で報告した。なお、1998年に高知県の水耕栽培ナスで本属菌により1年生株の地際部や茎が侵され地上部が枯死する茎枯病が報告されている。